

1948(昭和23)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

入間川町(現・狭山市)生まれ、入間川在住。狭山市立入間川小学校、西中学校卒業。小さい頃から生き物が好きで、鳥や魚、昆虫などを仕掛けを工夫して捕まえたり、夏休みは昆虫採集に明け暮れたり、そんな子供時代を過ごした。県立川越高校に入学し、たまたま隣の席になったのが、現在、(公財)トトロのふるさと基金理事を務める荻野豊氏。氏との出会いが本格的に鳥を見るきっかけとなる。その後、職業訓練指導員を養成する職業訓練大学校に進学。卒業後、入間市役所に就職。入間市在住の鳥類研究者・柳澤紀夫氏と出会い、入間市主催の自然観察会に継続的に参加する。勤務の傍ら、ヒメアマツバメなどの野鳥の保護活動も行った。1984年設立の(公財)埼玉県生態系保護協会の評議員。また、会の設立時より狭山支部の支部長を務めている。さやま市民大学や公民館、小学校などで講師を務め、野鳥観察の面白さや自然保護の大切さを伝えている。



2. 主な業績



・「入間川早朝探鳥会」を主宰。毎月第3日曜日、広瀬橋付近で野鳥生態調査を兼ねた探鳥会を行っている。同じ場所でのどのような変化があるのか、40年以上にわたり観察を続けている。

・(公財)山階鳥類研究所の鳥類標識調査員として、鳥の渡りの実態や寿命を調べ、1年間のデータを報告する。鳥類標識調査員は鳥類の識別について十分な知識を持ち、野鳥を安全に捕獲、放鳥する技術を身につけていることが必須である。氏は鳥類標識調査員(バンダー)の資格を取得し、冬の間、バンダーの仕事を行っている。

・柳澤紀夫氏提案の入間市鳥類分布調査に1984年の第1回調査から参加。10年ごとに実施している本調査にボランティアとして携わり、調査から集計、解析作業まで行っている。40年にもわたって同一方法で調査が行われているのは国内の自治体では本調査だけで、大変貴重な調査である。

・毎年、入間川小の5年生を対象に入間川の自然観察会の講師を務めている。春には校外でツバメなどの野鳥を観察し、秋には春の観察会の体験をもとに野鳥の生態や自然保護などの話をする。

・カラス類、イソヒヨドリ、オナガ、シジュウカラ、キジバトなど都市環境に適応した都市鳥を研究する「都市鳥研究会」に所属し、都市鳥の生態を解明、研究している。また、自宅で定期的に野鳥の研究会を開き、鳥の研究論文を読み、意見交換を行っている。

3. 特筆

「長年、鳥を見続けてきたのは、いつも新しい発見があったから。野鳥は環境を知る指標、鳥を見ることは自然世界を見ることである。鳥を見ていると、世の中の事象は自然界とつながっていることがよく分かる」と津森氏は語る。現在の活動を続けながら、いつか世界中を旅して「野鳥漫遊記」を著してみたいと、氏は夢を語った。

<インタビュー> 津森義則氏